

心念身儀（しんねんしんぎ） 発露（ほつろ） 白仏（びやくぶつ） すべし

普泉寺住職 小山 貴大

修証義第二章第十節

我昔所造諸悪業（がしよくしよぞうしよあくごう） 皆由無始貪瞋癡
（かいゆうむしとんじんち） 従身口意之所生（じゅうしんくいしし
よしよう） 一切我今皆懺悔（いっさいがこんかいさんげ） 是（かく）
の如く懺悔すれば必ず仏祖の冥助あるなり、心念身儀（しんねんし
んぎ） 発露（ほつろ） 白仏（びやくぶつ） すべし 発露（ほつろ） の
力罪根（ざいこん） をして銷殞（しょういん） せしむるなり。

現代語訳

「私が昔から造ってきた所の諸々の悪い行いは、みな永遠の昔から
のむさぼりやいかりや無知によるものであり、身体や口や心から
生まれたものである。これら一切を私は今すべてを懺悔し

罪を告白し許しをこう。」

このように懺悔すれば必ず仏や祖師方の目に見えない助けがあるの
である。心に想い、身を正し、（自分の過ちを）言いあらわし、仏に申
し上げなければならない。その告白の力が罪の根源をあとかたもな
く断ち切るのである。